

## 私の好きな日本の言葉 —私からあなたへのメッセージ

大連外国語大学 金昕睿

「いつも笑いが絶えない家庭にはきっと幸せが訪れますし、いつも笑顔で明るく暮らしている人にも自然に幸せがやってきます。」これは日本語の授業で初めて知ったあることわざの意味です。私の好きな日本の言葉、それは「笑う門には福来る」です。

「笑いの神さんに首根っこつかまれたなっという気がすごくしました」あるお笑い芸人がテレビ番組の中でそう話していました。日頃起こった出来事をおもしろおかしく表現し、それに激しくツッコミを入れて、お客さんを笑わせる日本のお笑い芸人。聞いている人たちはみんな幸せそうな顔をしています。彼らは教科書の中に出てくる「真面目で恥ずかしがり屋な日本人」とはまったく異なる人たちです。しかし、お笑い芸人だけでなく、一見真面目そうな日本人の心の中をのぞいてみると、そこには「笑いの神様」が大きな口をあけて笑い、その人の首根っこをつかんでいるのかもしれませんが。「笑う門には福来る」を体現している日本のお笑い文化は世界に誇れるものだと私は思います。

実は私にも「笑いの神様」が宿っている宝物があります。それは私がおもしろいと感じたことを日々記したメモ帳、そう、お笑いの世界で言う「ネタ帳」です。そこには「日本のお辞儀は角度によって意味が違う」「日本で女性同士が腕を組んだら同性愛者だと誤解される」など、実際に私が経験したカルチャーショックがびっしり書き込まれています。そのネタ帳をめくるたびに私は吹き出してしまい、なんだか幸せな気持ちになれます。それだけでなく、時々それを友達ともシェアして、一緒に楽しめます。実は、以前の私は普段の生活の中で起こったおもしろいことにまったく気づかず、人を笑わせることなど考えもしませんでした。しかし、ある先生と出会って、私は変わりました。

大学に入って、私は初めて勇気をふりしぼって、スピーチ大会に参加しました。そこで、今私のスピーチの指導をしてくださっている日本人の先生と出会いました。先生はユーモアのある方で、スピーチの練習のたびにおもしろい話をして私を笑わせました。日本のオタクたちが集結するコミックマーケット、通称コミケの話。鉄道に乗ることを楽しんだり、写真を撮ったり、駅の名前まですべて覚えている鉄道ファンの話など、それらは多岐に渡っていました。先生の話を知ると、ただ単に笑って終わりではなく、私の知らなかったありのままの日本を少しずつ理解できるようになりました。その一方で、先生はスピーチの原稿のチェックが厳しく、やり直しを何度もさせます。最初は「私にはユーモアがないから、おもしろい原稿なんて書けないよ。」と悩んでいました。すると、先生は「そんなことないよ。これから毎日おもしろかった出来事をメモ帳に書いてみたら」というアドバイスをしてくださったのです。いつもおもしろい話ができる先生の秘訣がわかったような気がした私は、その時から自分の「ネタ帳」を作り始めました。

それから私のスピーチは変わっていきました。以前はありきたりなスピーチしかできず、聞いている人の反応もあまりよくなかったのですが、ネタ帳のネタをスピーチに取り入れることで、次第にみんなが笑ってくれるようになりました。私はネタ帳をつけることで身近なところに潜んでいるおもしろいことにも気づけるようになり、スピーチを通して聞いている人を笑わせることもできるようになっていたのです。

「笑う」ことは、病気をも治せる不思議な力を持っていると言われていています。ですから、私は「笑う門には福来る」という言葉を胸に、これからも「ネタ帳」を書き続け、自分自身を笑わせ、そして私のスピーチを聞いてくれる人たちにも「笑い」を届けていきたいです。みんなで一緒に笑って、みんなにたくさん「福」が来ますように。